

デジタル変革時代の電波政策懇談会 第8回会合における主な意見

令和3年8月
事務局

周波数帯域確保の目標設定

- 目標設定に向けて、産学官挙げての研究開発が進むと良いと思った。（藤原構成員）

報告全体について

- ・ 非常に意欲的で時代に合った報告となっている。(森川構成員)
- ・ ワーキンググループの皆が精力的に議論を重ね、普遍性のある一般原則を整理したことは良い。(大谷構成員)

2. 周波数の再割当制度の導入

【周波数の固定化への対応】

- ・ 再割当てに関しては、言った者勝ちにならないように、しっかりと制度設計をお願いしたい。(森川構成員)
- ・ 事業者の立場から考えると、予見性が重要になるかと思う。予見性が担保できるような仕組みの構築をお願いしたい。(森川構成員)
- ・ 予見性の担保については、きちんと考慮していただきたいと思う。新しい制度を導入することによって、新しいシステムを導入するインセンティブをそがないようなルールづくりをお願いしたい。新しいシステムへ移行するのをためらわせるような政策に既存事業者から見えてしまうところがあると思うので、そのようなことのないように、良い制度設計を期待している。(高田構成員)
- ・ 技術進歩のディスインセンティブにならないように十分配慮しながら進めていていただきたいと思う。(三友座長)
- ・ 特殊な対応ではなく、これまでなかった普遍的・一般的なルールをゼロから練り上げたという意味で良いと思う。(篠崎構成員)

【移動通信業者の役割】

- ・ あまねく基地局を開設するよう努めるという義務について、あまねく受信できるように努めるとされている放送法の基幹放送における義務と平行に考えていると思う。努力義務をどのように受け止めることが必要なのかについては、周波数の性格などによって若干差異が出てくると思うので、具体的にその周波数の特性に応じてどのような義務が生じるのかを示していくことが大事だと考えている。(大谷構成員)

3. 電波の利用状況調査（携帯電話・全国BWA）の改善

【電波の利用状況調査の評価指標】

- ・ 再割当てとリンクすると提言されている利用状況調査について、どのような体制でどのように行うのが肝になると思う。例えば、第三者評価のようなものが必要なのか否かなど、ブレークダウンしてしっかりと制度を詰めていただきたい。(森川構成員)
- ・ キーとなる共通の尺度による絶対評価の指標をどのように整えていくかが、本当に大事だと思う。事業者サイドの予見性を確保するために、かなり早い時期に、その尺度の内容や、公平な基準であるということの納得性を得るための議論を実施していただきたい。(大谷構成員)
- ・ エビデンスに基づく評価が非常に重要になってくる。(三友座長)

第2章 1. デジタル変革時代の到来及びSociety 5.0の実現

- 報告書の導入部分において、利用者サイドに立った視点として、プライバシー保護や利用者保護といった観点についても、どこかの文脈の中で言及してもよいと思う。（飯塚構成員）

第3章 2. 周波数有効利用の検証及び割当ての方策

【電波の利用状況調査の改善】

- 帯域別のトラフィック情報をこれから上手く客観的に運用していくことが大事だろうと思う。プロセスの透明な運用自体が一つの新しい制度設計になっていくと思うので、今後が重要になる。（篠崎構成員）

【BWAの見直し】

- 地域BWAについて、5年という期限を設け、利用されない場合は全国バンド化という方針を示したことは非常に大きな進展だと思う。ただ、駆け込みで免許だけ取って十分整備しないということがないように、周波数の利用状況調査をしっかりと行って、一定の期間後にしっかりと期限を切って、有効に利用されているかを審査することが前提になってくると思う。（北構成員）

【周波数の経済的価値を踏まえた割当て手法】

- 諸外国のオークションでは様々な不都合が出ていて度々見直しがされているというのはそのとおりだと思う。その一方で、先進国では日本を除いた他国はオークション制度を導入していて、その中で不具合の見直しをしようという、フロンティアに踏み出した後の見直しである。先行者の良くない点は後発者の利益として学びつつ、ある程度、様々なことにチャレンジしていくということも大事。（篠崎構成員）